

**両角友成**議員の 11 月県議会での質問と答弁の要旨を紹介します。一般質問、答弁の全文はホームページの**議会の様子**から、質問の動画は右の QR コードよりご覧いただけます。



## \* マイナンバーカードと健康保険証の一体化について

**両角** 河野デジタル大臣は、2024 年秋までに健康保険証の廃止を言い出した。国民の理解を無視し期限を切るのは強制であり、カード普及のため国民の命に関わる健康保険証を担保にとるようなやり方は断じて許せない。国の動きには問題があり、健康保険証廃止の方針の撤回を求めるべきと考えるが、見解を伺う。

**知事** 我が国はデジタル化が遅れており、課題を解決しながらも確実に進めていかなければいけない。健康保険証のデジタル化はより良い医療提供のためのメリットがあると考えている。国においては課題を解決して、円滑な移行ができるよう取り組んでほしい。

**両角** 政権は保険証廃止策動にみられるように、カード取得を事実上強制しており、今後さらに大手 IT 企業への利益が集中する状況が生まれる。政府の狙いは全国民にマイナンバーカードを持たせることにある。あくまで任意取得であると改めて強調する。

## \* 介護保険制度の見直しについて

**両角** 国では、3 年に一度の介護保険見直しの議論が行われ、介護サービスの利用料負担の対象拡大やケアプランの有料化など利用者負担が増すもので、中身は大改悪だ。県としてどのように考え、対応していくか伺う。

**健康福祉部長** 制度の持続可能性の確保の観点から、これまで国庫負担の増額を県独自で要請してきた。見直しについては、制度全体として高齢者が必要なサービスを利用し、安心して日常生活を営むことを阻害することのないように配慮していく必要がある。

**両角** このまま国の言いなりになれば、以前のような家族介護の時代に逆戻りしてしまうと警鐘を鳴らしておく。

## \* コロナ禍における教育現場の救済について

**両角** コロナ禍において県内の小中学校では、より教員の大変さが浮き彫りになると同時に、子ども一人ひとりと向き合える環境ではないと懸念する保護者の切実な声もある。困窮する学校現場の現状についてどう把握し、どのような問題意識を持っているか。また、小中学校の教員の負担軽減について教員の増員も含め具体的な方針を伺う。

**教育長** 教員の時間外勤務時間は減少傾向にあったが、コロナ対応で横ばいの状況。コロナ禍において時間外勤務時間を縮減していくことは課題である。教員の増員は抜本的には国の定数改善が必要。行事等の見直しや ICT の活用などと併せ、教員の負担軽減に取り組む。

### 質問を終えて

「車の免許証」は残すというのに、マイナンバーカードの普及のために、60 年の歴史がある「健康保険証」は廃止するという。許してはいけな思考えます。

